

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04290

研究課題名（和文）社会福祉実践におけるスピリチュアリティに配慮した支援計画様式の開発

研究課題名（英文）Development of Support Planning Form Considering Spirituality in Social Welfare Practice

研究代表者

岡本 宣雄（Okamoto, Nobuo）

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授

研究者番号：40412267

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の理論研究（文献研究）では、宗教学的な観点から、スピリチュアリティの概念の本質と構造を考察した成果を学術論文にまとめた。また、ケアの観点から、福祉領域における日常モデルを活用したスピリチュアルケアの可能性について学会発表できた。そして、日本のスピリチュアルケアの研究と実践に関し、国際学会で発表できた。実証的研究（調査研究）では、「ケアマネジャーのスピリチュアリティと支援計画（ケアプラン）に対する意識調査」を実施し、調査結果の分析と考察を行い、学会発表、および学術論文にまとめた。以上の研究により、スピリチュアリティに配慮した支援計画策定の意義と課題について明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、福祉専門職が福祉の現場で実際に活用できる、スピリチュアルな側面を捉えた支援計画の様式を開発することであった。本研究の成果から、ケアマネジメントに従事する介護支援専門員が業務を遂行するうえでの、高齢利用者へのスピリチュアルな側面への意識と理解が深まり、チームケアとしての連携機能の向上が期待できる。また、スピリチュアリティを組み入れた支援計画（「居宅サービス計画」）の意義が専門職間で共有され、このことを通し、支援を要する高齢者に対するケアプランの様式の開発に向けた研究と取り組み推進され、利用者のQOLの向上を目指したケアマネジメントの実践とこの機能の向上が期待できる。

研究成果の概要（英文）：the theoretical research (literature research) in this research, I summarized the results of examining the essence and structure of the concept of spirituality from the viewpoint of religious studies in an academic paper. In addition, from the viewpoint of care, I was able to make a presentation at an academic conference on the possibility of spiritual care using a daily model in the welfare field. And I was able to make a presentation at an international conference on the research and practice of spiritual care in Japan. In the empirical research (survey research), we conducted an "Awareness Survey on Care Managers' Spirituality and Support Plans (Care Plans)", analyzed and considered the survey results, and summarized them in conference presentations and academic papers. From the above research, we were able to clarify the significance and problems of formulating a support plan that considers spirituality.

研究分野：社会福祉

キーワード：スピリチュアリティ 高齢者 ケアプラン ケアマネジメント

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

社会福祉実践の目標が「生きがい」や「自己実現」の支援であるといわれるなか、支援の基盤である高齢者の人間固有の存在の意味や価値にかかわるスピリチュアルな課題を、福祉従事者たちが捉えきれずにいるという現状がある。

スピリチュアリティの重要性は世界保健機関（WHO）の健康の定義改正案に見られる。そこでは、健康を、身体的、心理的、また社会的側面においても良好な状態（well-being）であることとすることに加え、スピリチュアルな側面にも言及することによって、人間を「全人的（holistic）」に捉えることとなっている。つまり、スピリチュアリティは、人間を全人的に捉えて評価するさいに、はずすことのできない概念として認識されている（藤井, 2015 p.49-52）。

しかし、スピリチュアリティを考慮した生活支援、具体的なケアマネジメントの意義や方法は提示されていない。このような現状のなか、ケアマネジメントから価値、信条、宗教、死生観などに関連するスピリチュアルな側面の視点が欠落し、支援計画に反映されていないことが指摘されている。今後、福祉専門職が、ケアマネジメントの過程で、アセスメントによって抽出された利用者のスピリチュアリティの内容とニーズを、支援計画全体に組み込み、実際の介入や実践につなげるため、支援計画の策定を可能とする様式の開発とその計画の作成方法の提示は重要である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、福祉サービスを利用する高齢者に対する、スピリチュアリティに配慮した支援計画策定の意義を検証し、福祉現場で実用可能な支援計画の様式を開発することである。

本研究で、申請者はスピリチュアリティを「人間が生来的にもつ超越的なものとの関係のなかで、自己の存在のうちに意味を見出す、人間の生の側面である」（岡本, 2015 p.33）と定義する。

（1）高齢者における「生活上経験するスピリチュアルな課題」（Spiritual well-being: 「霊的安寧」、Spiritual pain: 「霊的な苦痛」等）を明示する。そして、情緒的な側面を支持する人生の意味付けに関連する「スピリチュアルニーズ」（Spiritual needs）を明示する。

（2）支援計画の作成を担う福祉専門職が抱えているスピリチュアリティに関する意識について、アンケート調査を実施し明らかにする。また、支援の過程で福祉専門職が実際に捉えている、利用者の生活上のスピリチュアルニーズについて、福祉専門職を対象とし、グループインタビューを実施し明らかにする。

（3）上記の（1）（2）を踏まえ、福祉専門職が、高齢者に対するケアマネジメントにおいて、スピリチュアルな側面を捉えた実際の介入や実践につながる、支援計画の策定を可能とするその様式を作成し、計画の作成方法を提示する。

### 3. 研究の方法

#### （1）理論研究（基礎、応用研究）

理論研究では、高齢者のスピリチュアリティに関連する概念を精緻化するため、キリスト教、社会福祉学、老年学、死生学等の文献および資料を用い、スピリチュアリティの本質、及び高齢者のスピリチュアリティの研究を行う。スピリチュアリティを捉えたケアマネジメントの可能性とその過程にある計画作成の意義と実際に関する研究史（生活支援からの内容と方法の検討）を国内外の、社会福祉学、また、福祉分野におけるケアマネジメント関連の専門書、論文等の文献から考察をする。

#### （2）調査研究（実証的研究）

質問紙調査：高齢者を対象にケアマネジメントに従事する介護支援専門員のスピリチュアリティの意識、ならびに利用者のスピリチュアルな側面を捉えた支援計画の実際に関する質問紙調査を実施する。

インタビュー調査（グループインタビュー）：利用者の生活上のスピリチュアルニーズを把握するために、支援計画の作成に携わる介護支援専門員を対象とし、スピリチュアリティの意識、ならびに、利用者のスピリチュアルな側面を捉えた支援計画の意義とその実際に関するグループインタビューを実施する。

（1）（2）を通し、高齢者を対象としたケアマネジメントにおいて、スピリチュアルな側面を考慮し、支援計画の作成を可能とする計画の様式、使用の手引き書を作成し、その活用方法を提示するための基礎的データを収集する。

### 4. 研究成果

#### （1）理論研究（基礎、応用研究）

高齢者のスピリチュアリティに関連する概念を精緻化するために、宗教学的、特に、キリスト教の観点から、この概念がもつ特質や意味内容について考察できた。

梶原（2018）による文献研究より、スピリチュアリティの概念について、キリスト教（聖書）の観点から「祈り」を手掛かりに、この概念と機能について提示することができた。（学術論文

で発表)祈りとスピリチュアリティの関連性について、宗教的な側面はキリスト教の思想を確認しながら、考察を行った。祈りに関しては、懇願 (Petition)、告白 (Confession)、執り成し (Intercession)、賛美と感謝 (Praise and Thanksgiving)、崇敬 (Adoration) の 5 つの側面から、内容にアプローチした。そして、スピリチュアルケア実践者でもある 2 人の研究者の、スピリチュアリティに配慮したケアのあり方に対する見解について考察し、そこから、関わりにおける祈りのあり方を検討した。その結果、以下のことが明らかとなった。1. 祈りは、スピリチュアリティおよび宗教性に導かれて捧げられるスピリチュアリティおよび宗教性の表現である。2. 祈りは、超越者との関わりであるがゆえに、手段に終わらずそれ自体が目的である。3. 祈りには、言葉にさえならない心の深淵が含まれるが、超在者にそれを向けるとき、働く力がある。それがスピリチュアリティの持つ力である。4. 祈りの実践は、スピリチュアリティの働きを解放し、その働く場を与える。

また、梶原 (2017) による文献研究では、旧約聖書の知恵文学にみられる知恵理解における、知恵とスピリチュアリティとの関連性について、聖書の原典を資料として考察した ( 学術論文で発表 )。その結果、まず、現実における秩序を軸として知恵が考察されていること、そしてここでは、功利的知恵、倫理的知恵といった実際的な知恵と、根本的知恵、超越的知恵といった、超越者の存在を視点を据えた知恵理解がなされていることが明らかとなった。また、スピリチュアリティは、霊を与えられた人間に全人的にかつ日常的に備わっているものであり、それは知恵と同様に神としての超越者から与えられたものであるという点、さらに、知恵がその超越者の存在を人間に示し、それを信頼して歩む幸福へと導くものであると考えられていた点が明らかとなった。

岡本 (2021) による文献研究により、本研究のテーマにあるスピリチュアリティに配慮した支援計画の内容と項目となる、高齢者が日常で経験するスピリチュアルな体験 (DSE : Daily Spiritual Experiences) に関する研究を学術論文として表した。

福祉領域、特にソーシャルワークに関連した高齢者の「日常のスピリチュアルな体験」 (DSE : Daily Spiritual Experiences) について、英語圏の文献を取り上げ、文献研究を行い、高齢者の DSE の特徴と福祉領域における支援についての研究の動向を概観した。その結果、福祉領域における DSE 研究対象は、一般高齢者、すなわち、地域で暮らしを営む市民であった。これは、DSE を市民レベルまでに一般化し、よりその日常性を強調したものであるといえる。また、DSE 研究がこのスケール、すなわち、DSES (Daily Spiritual Experiences Scale) の方法による実証的研究のもと、広義の健康 (health) との関連で議論されていた。さらに、福祉領域における DSE を考慮した高齢者への支援では、ソーシャルサポートとの有意な関連が指摘された。ソーシャルサポートは、スピリチュアリティの特質である「超越なるもの」との関係、そして、コミュニティ等の社会関係のなかで機能し、高齢者の DSE と抑うつとの緩和に寄与していた。このことは、福祉領域における高齢者への生活支援において、DSE が考慮されていること、そして、ソーシャルサポートが確保されていることが重要であることを示唆していた。

岡本 (2022) により、ケアマネジメントにおけるスピリチュアリティと、これに配慮したケアプラン作成の意義と課題する文献研究を行い、その研究成果を雑誌論文に投稿した。( 査読中 ) 介護支援専門員は、地域で暮らす要介護高齢者を対象とした居宅介護支援において、ケアマネジメントの目的にある QOL の向上を意識し支援している。この QOL を構成する要素に、スピリチュアリティがあり、この側面に考慮したケアプランが作成される必要がある。高齢者のスピリチュアリティに関する先行研究から、居宅サービス計画に組み入れる高齢者のスピリチュアリティは、日常でのスピリチュアルな体験 (DSE) であった。すなわち、これらスピリチュアリティの内容は、自己・他者 (友人、親戚、家族等)・自然・超越なるもの (神や仏・先祖・子孫等) との関係性となつたり感、宗教的な習慣・慣習、存在の根拠 (よりどころ) 意味探究、価値、信念、希望、死生観等を含むものであった。スピリチュアリティを組み入れたに居宅サービス計画作成に向けては、介護支援専門員がもつスピリチュアリティへの意識の醸養、主観的な特徴や達成度を評価すること、存在論的思考によるケアプランの作成に向けた課題がある。

## ( 2 ) 国際学会での発表 (ワークショップの担当)

2018 年 7 月 8 日 ~ 10 日開催 : 国際学会 International Conference of Spiritual Care ( 国際スピリチュアルケア学会 ) 開催地 : 米国ニューヨーク ( NY のユニオン神学校 ) 学会テーマ " Religious Conflict: External and Internal " ( 宗教間衝突 - 外から見える衝突と内的衝突 ) 約 150 人 ( アメリカ人、ドイツ人、スイス人、ユダヤ人、オーストラリア人、デンマーク人、ノルウェー人、日本人など ) が参加した。研究発表 : 日本のスピリチュアルケアの研究と実践に関する口頭発表 ( 英語 ) ならびにワークショップの企画。運営を担当した。

< 研究発表 >

発表者名 : Nobuo Okamoto, Toshiyuki Kubotera

発表題 : " Spiritual Care in Japanese Social Welfare in light of a Multi-cultural Tradition and Care of the Soul in the Multi-religious Society of Japan "

岡本が「多様な伝統文化社会にて社会福祉領域においてできるスピリチュアルケア」、窪寺が、「宗教的多様性を持つ日本での魂へのケア」と題して発表した。

< ワークショップの開催 >

ワークショップ : 岡本、窪寺が担当した。テーマ : " Spiritual Care in Japanese Social

Welfare in light of a Multi-cultural Tradition and Care of the Soul in the Multi-religious Society of Japan” 口頭発表 岡本：“A Short Overview of the History of Spiritual Care in Japan-with theory to be used in the welfare area” 窪寺：“Care of Souls in the Multi-Religious Society of Japan” を発表した。その後、参加者全員と発表内容をもとに討議を行った。

本国際学会の報告ならびに研究成果は、窪寺（2018）が学術雑誌に投稿している。

### （3）実証的研究（調査研究）

#### < 質問紙調査 >

実証的研究（調査研究）：「ケアマネジャーのスピリチュアリティと支援計画（ケアプラン）に対する意識調査」を実施し、調査結果の分析と考察を行った。（学会、学術論文で発表）

岡本・井上・滝口（2019）：実証的研究（調査研究）：「ケアマネジャーのスピリチュアリティと支援計画（ケアプラン）に対する意識調査」を実施し、調査結果の分析と考察の結果を全国レベルの学会にて発表することができた。ケアマネジャーのもつスピリチュアリティと、本研究が利用者理解とケアプラン作成において重要とする項目のいくつかの間に関連性が見られ、ケアマネジャーのスピリチュアリティを涵養させるような研修。実践が必要であることが明らかになった。

井上・岡本・滝口（2022）本研究期間に質問紙調査を実施し、学会にて発表を終えた実証的研究（調査研究）「ケアマネジャーのスピリチュアリティと支援計画（ケアプラン）に対する意識調査」の調査結果の分析と考察の結果を学術雑誌に投稿し発表した。

介護支援専門員（ケアマネジャー：CM）のスピリチュアリティと、CMの属性及びケアプラン（CP）との関連を明らかにすることである。A県とB県のCMを対象に2018年9～10月に調査票を286部配布し、208部が返却された（72.7%）。調査には竹田ら（2007）のスピリチュアリティに関する尺度を使用した。分析の結果、第1に、スピリチュアリティに関する構造方程式の妥当性が認められた。第2に、スピリチュアリティ得点と、CPを作成する際に重視すべきだと本研究が考えるすべての項目との間に関連性が認められた。第3に、スピリチュアリティ得点とCMが持つスピリチュアリティには、基礎資格による違いが認められず、年齢が上がるにつれスピリチュアリティ得点が高くなった。以上からスピリチュアリティに関連する項目をケアマネジメントに援用させることが重要である。CMの年齢を問わない資格横断的な研修が必要であり、そのことが利用者のQOLの向上につながると考える。

#### < インタビュー調査 >

岡本・滝口（2021～22年度：調査期間は、2021年9月7日～2022年8月19日）質的調査として、ケアマネジャー（介護支援専門員）が高齢者に対し計画する支援計画の意義と課題について、居宅介護支援事業所4カ所の介護支援専門員を対象に、オンライン（Zoom）を使用しグループインタビュー調査を実施した。その結果の分析と考察から、スピリチュアリティを組み入れた居宅サービス計画の様式を開発するための基礎データを得ることができた。

居宅サービス計画が、スピリチュアルな側面を含む「人生プラン」とするならば、「最低限の生活」や「日常の生活が送れるためだけの支援内容」を盛り込んだ画一的なプランとならないために、目に見えない大切にしている、利用者の存在意義や生きる意味に関連するスピリチュアルな側面をアセスメントし、支援計画に組み入れていくことが重要である。このことを実現するには、介護支援専門員のスピリチュアリティに関する意識の涵養、ならびにケアプランの記述等の様式の項目とその記述の仕方への検証が必要であることが明らかになった。本研究成果は、2023年度に開催される全国規模の学術大会で発表が採択され、その後、社会福祉関連の学会誌への投稿の予定である。

#### < 引用文献 >

藤井美和（2015）『死生学とQOL』関西学院大学出版会、兵庫、49-52.

岡本宣雄（2017）『介護福祉サービスを利用する高齢者の日常的スピリチュアリティに関する研究 語りの分析を通じて支援の課題を問う』博士論文、川崎医療福祉大学大学院、岡山、33.

竹田恵子・太湯好子・桐野匡史・雲かおり・金貞淑・中嶋和夫（2007）「高齢者のスピリチュアリティ健康尺度の開発：妥当性と信頼性の検証」『日本保健科学学会誌』10(2)、63-72.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 井上信次・岡本宣雄・滝口真	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 介護支援専門員のもつスピリチュアリティとケアプランとの関連に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 101-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙 廷仁・滝口 真・矢ヶ部陽一	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 韓国老人長期療養施設におけるレクリエーション支援に関する考察 - 施設職員を対象としたテキストマイニング分析を通して -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢ヶ部陽一・滝口 真	4. 巻 (31)
2. 論文標題 中年高齢期のひきこもりにある人々の生活困難の構造についての質的分析 ソーシャルワーカーへのインタビュー調査を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉文化研究	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本 宣雄	4. 巻 30(2)
2. 論文標題 高齢者を対象とした日常のスピリチュアルな体験（DSE）に関する研究 - 英語文献を中心として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 421-429
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梶原直美	4. 巻 129
2. 論文標題 ヘルマン・ヘッセの『湯治客』(Kurgast)に見る「愛」：新約聖書のことば理解(マタイ5,44/ルカ6,27;6,35)をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界文学	6. 最初と最後の頁 67 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原直美	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 祈りとスピリチュアリティ それぞれの作用と相互の関連性をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 65-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝口真	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 高齢者ソーシャルワークにおける福祉レクリエーションと治療レクリエーションの日韓比較研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝口 真	4. 巻 (6)
2. 論文標題 韓国の高齢障害施設における治療レクリエーションに関する考察 ソーシャルワーク援助の視点より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州レジャー・レクリエーション学会	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝口真	4. 巻 (28)
2. 論文標題 研究プロジェクト報告 高齢者福祉施設における福祉レクリエーションの日韓比較調査研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉文化研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝口真	4. 巻 48
2. 論文標題 高齢者福祉施設における福祉レクリエーションの現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西九州大学健康福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原直美	4. 巻 27 (2)
2. 論文標題 旧約聖書の知恵文学における「知恵」理解にみられるスピリチュアリティ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 293-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝口真	4. 巻 23 (1)
2. 論文標題 社会生活を支援する看護福祉学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岡本宣雄・井上信次
2. 発表標題 スピリチュアリティに配慮したケアプランに関する研究（その1） - スピリチュアリティを組み入れたケアプランの意義 -
3. 学会等名 第61回 日本老年社会科学学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上信次・岡本宣雄
2. 発表標題 スピリチュアリティに配慮したケアプランに関する研究（その2） - 介護支援専門員を対象とした質問紙調査から -
3. 学会等名 第61回 日本老年社会科学学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuo Okamoto, Toshiyuki Kubotera
2. 発表標題 Spiritual Care in Japanese Social Welfare in light of a Multi-cultural Tradition and Care of the Soul in the Multi-religious Society of Japan
3. 学会等名 International Conference of Spiritual Care 2018.7.11. Union Theological Seminary.NY.USA（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝口 真・CHO JUNGIN
2. 発表標題 高齢障害者へのソーシャルワーク実践についての一考察 - 福祉レクリエーション援助の視点から -
3. 学会等名 第31回九州レジャー・レクリエーション学会 2019.3.3. 福岡子ども短期大学
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 岡本宣雄
2. 発表標題 福祉領域における日常モデルを活用したスピリチュアルケアの可能性
3. 学会等名 2017年度 第10回 日本スピリチュアルケア学会記念学術大会（於・京都文教大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝口 真・岡本宣雄
2. 発表標題 ソーシャルワークにおける高齢障害者へのストレンクス視点に関する一考察 - 福祉レクリエーション援助の視点より -
3. 学会等名 日本キリスト教社会福祉学会第58回全国大会（於・弘前学院大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝口 真
2. 発表標題 認知症高齢者におけるソーシャルワーク実践に関する一考察 - 福祉レクリエーションによるA-PIEプロセスより -
3. 学会等名 韓国文化福祉学会（於・韓国ハート財団、スンシル大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝口 真
2. 発表標題 高齢者施設における福祉レクリエーションの日韓比較調査研究
3. 学会等名 第28回日本福祉文化学会（於・立教大学）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 滝口 真	4. 発行年 2017年
2. 出版社 みらい	5. 総ページ数 21
3. 書名 第2章「ソーシャルワークの定義と範囲・領域・構成要素」相澤讓穰治監修・植戸貴子編著．『ソーシャルワークの基盤と専門職』（第2版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	滝口 真  (TAKIGUTI MAKOTO)  (20258635)	大分大学・健康福祉学部・准教授   (37201)	
研究分担者	井上 信次  (INOUE SHINJI)  (80441484)	新見公立大学・健康科学部・教授   (25302)	
研究分担者	梶原 直美  (KAJIHARA NAOMI)  (90310680)	関西学院大学・教育学部・教授   (34504)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	窪寺 俊之  (KUBOTERA TOSHIYUKI)	兵庫大学・看護学研究科・特任教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------